

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年3月19日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2775501824
法人名	社会福祉法人 寿昌会
事業所名	ケアホーム山本苑
所在地	八尾市長池町3-21-7 (電話) 072-996-5681

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成21年3月4日

【情報提供票より】(平成21年1月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年1月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	5人
職員数	12人	常勤	3人, 非常勤 9人, 常勤換算 4.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨一部木造 造り		
	3階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000円	その他の経費(月額)	30,000円	
敷金	有() 円 無()			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要 (平成21年1月10日現在)

利用者人数	5名	男性	0名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.4歳	最低	78歳	最高	102歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高砂クリニック、貴島病院本院、前田歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理事長の自宅を改装した、1ユニット5名の家庭的な雰囲気のホームです。軽費老人ホーム、デイサービスが併設されており、施設全体の機能を有効に活用したサービスが提供されています。管理者は「手作り介護」を理念とし、職員は利用者の為に何が出来るのか、常に利用者の声を聞き、何が必要かを考えながらケアに取り組んでいます。職員の退職や異動がほとんどなく、管理者と職員の風通しの良さが、利用者の生活の豊かさや笑顔に繋がっています。「楽しく、ゆっくり過ごしているよ」と利用者の声が聞かれました。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 外部評価結果は、報告書として職員に回覧され、市や運営推進会議でも報告を行っています。前回からの改善点は、災害対策の1点だけでした。課題とされた、災害時の非常用食料や備品の準備もされています。更なる目標として掲げたセミパブリックスペースでのソファの設置、金銭管理については領収書のコピーを保管し、家族からの情報の聞き取りなども取り組んでいます。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は自己評価の意義を理解しており、職員の意見を聞きながら取り組んでいます。また、各項目について職員が意識付けできるよう、資料を配布するだけでなく、学習会でも確認を行っています。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議の規定を作成し、2ヶ月に1回定期的に開催されています。市の職員や高齢者クラブ、民生委員、利用者、家族の参加で行われています。地域の行事などの情報を交換し、ホームの様子などを報告しています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) ホーム内に意見箱を3箇所設置するとともに、家族の訪問時には利用者の様子を伝え、意見を聞くように努めています。家族会もあり、年に数回交流会が行われています。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 幼稚園児から高校生まで、福祉体験の受け入れや交流などを積極的に行っています。夏祭りなどの地域行事への参加、地域の飲食店への外食や買い物などにも出かけています。また、ホームへお菓子・雑貨の訪問販売やヤクルト販売業者の出入りもあります。AED(自動体外式除細動器)の設置に伴い、職員が使用できるように取り組んでいます。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの人格を尊重した「手作り介護」を理念に掲げ「思いやりと笑顔をそえて家庭的な雰囲気の中、明るく、楽しく、和やかに」を目指し、管理者、職員全員が日々取り組んでいます。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、フロアや事業者内の職員や家族が見える場所に掲示しています。「手作り介護」とは、利用者一人ひとりが何を求めているか、「考える介護」への取り組みです。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	理事長が地域住民であり、併設施設が20年以上も地域と関わりをもち、ホームも地域の自治会、老人会、夏祭りなどの行事へ参加しています。また、幼稚園児から中学生、高校生の訪問を受け入れ積極的に地域との交流を進めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を会議で伝え職員で共有しています。また、内部研修で評価項目を一つひとつ確認し、グループホームに求められるケアの質向上に努めています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の規定を明文化し、市の職員や民生委員、高齢者クラブ、利用者の参加のもと行われています。会議は、2ヶ月に1回開催され記録に残しています。会議では、地域の情報交換やホームの取り組みが報告されています。今後も地域にあるホームとして役割や意見を聞き、サービスに活かしていくことが期待されます。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部評価結果は市へ報告を行い、市主催の会議にも積極的に参加しています。市への事故報告事はあれば速やかに報告できるようにしていますが、開設後、報告するような大きな事故もなく経過しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、利用者の様子や金銭管理の収支報告を郵便または電話で行い、領収書のコピーを保存し、家族の確認も取得しています。「山本苑」便りも定期的に発行し、外出やホームでの暮らしぶりを写真で伝えるとともに、家族の来訪時にも意識して様子を伝えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を定期的で開催し、苦情や意見を言える関係作りを心がけています。施設内3箇所に意見箱を設置し、意見や苦情が出た場合は会議等で話し合い運営に反映しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当時から職員の退職、異動がほとんどなく「いくつになっても職員が働き続けられる職場作り」を管理者が目指していることが伝わります。職員が管理者に信頼を寄せ風通しの良い職場作りが、利用者のケアに繋がっていることが利用者の笑顔からも伝わります。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設施設と共同し、内部研修や外部研修への参加や伝達講習など、年間計画に沿って実施しています。「認知症」や「感染症」、「緊急時対応」など、外部研修2回を含む年6回以上の研修や他のグループホームとの交流なども記録に残されています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会に加盟しています。市内のグループホーム施設部会の研修会への参加や相互の見学を行い、サービスの向上について取り組みを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設施設の軽費老人ホームの入居者が、認知症になった場合の生活の場所として設立したホームであり、現在は併設施設からの利用者を中心に入居しています。その為に、ホームの雰囲気に馴染みながら、入居に繋がっています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から人生の先輩として教わることが多いと話をしてしています。介護する立場のみではなく、利用者に人生の先輩として教わることがあり、共に過ごし支えあう関係を築いています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員と利用者との長年の関わりから、利用者一人ひとりの思いや希望を把握し、記録に残しています。利用者の生活歴や嗜好、趣味などの情報収集もシートを作成し、家族に記載してもらうなどの工夫もしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の思いや家族の意向を把握し、記録に残したものを介護計画に反映しています。また、利用者や家族のサインも得ています。毎月モニタリングを実施し、職員会議等で話し合い、情報の共有とともにケアに反映しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、3～4ヶ月に1回計画の見直しを行っています。日常生活での様子や会話等で得られた情報や介護計画の結果を丁寧に記録しています。今後、利用者の生活歴や介護計画、日々の記録が個別ファイルにまとめられることで、さらに職員間の情報共有ができ、また家族や利用者への情報公開にもつながることが期待されます。さらに今後、記録の整理について工夫することが期待されます。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の要望に応じて、通院やリハビリでの訓練なども積極的に支援しています。併設施設のデイサービスの参加者との交流もあります。AED（自動体外式除細動器）の設置や講習なども事業所として取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併施設設より日々の看護師による健康チェックや提携医療機関の24時間の医療体制、2週間に1回のドクターの訪問診療体制が整っており、家族の安心につながっています。利用者や家族の要望による医療を受診できるように支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時には、利用者や家族の意向を把握した上で、必要に応じて理事長、医師、看護師、家族、利用者とは話し合い、ホームで対応できる範囲について示し、方針を確認しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の就業規則に、守秘義務や個人情報の扱いについて謳っています。利用者に対する職員の声かけや職員同士の会話なども、プライバシーに対する配慮を行っています。研修においても人権について学習し、常に意識して業務を遂行しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決めています、利用者の気分やペースにあわせた対応を行っています。起床時間や就寝時間は自由で、起きた方から朝食を摂取するなど、利用者のペースに合わせて対応しています。夜間起きてくる利用者へも話を聞くなどの対応をしています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併施設で作られたものが届き、栄養管理も行われています。盛り付けや片付けは、利用者とともに、週1回は利用者と一緒にたこ焼きやお好み焼きを作っています。職員も利用者と同じ食事を摂りながら声かけを行い、サポートしています。また、朝食にパンを希望する利用者にはパン食にするなど、利用者の嗜好も配慮しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に応じて毎日でも入浴可能です。併設のデイサービスにある天然石温泉を利用し、入浴を満喫しています。リフト浴や血圧が高くても入浴気分を味わえるシャワー浴も利用できます。利用者の身体機能に応じて、ホーム内の家庭浴そうもあり、大浴場、個浴と選ぶことができる入浴環境です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌の好きな利用者がカラオケをしたり、習字を作品としてリビングに飾ったりするなどの支援も行っています。また、職員が利用者と一緒に楽しむために、大正琴を習いに行くなどの意欲的な姿勢が見られます。併設施設の誕生会に、皆で歌をうたいに行くことなども利用者の楽しみや生きがいに繋がっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日を選んで、週に2～3回の外出を支援しています。日常的にも、併設施設への入浴や行事の参加で外気に触れる機会があります。ホーム玄関脇に犬を飼い、利用者の外への関心を持ってもらうことや癒しにもなっています。冬場は、インフルエンザ等の罹患も配慮し外出を控えましたが、外食や花見などにも積極的に出かけています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者は鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけない自由な暮らしを支援しています。エレベーターも、自由に使用できます。利用者の行動に目配りし安全の配慮に留意しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害発生時マニュアルを作成しています。消防署の指導を受け、地域の協力を得ながら、併設施設とともに年に3回、消火器の使用法や避難訓練を利用者が参加して行っています。災害に備えて、水や食品など非常食品の備蓄もしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や水分量を把握し、記録に残しています。併設施設の栄養士の管理のもと、1日1500キロカロリー前後のバランスを考えた美味しい食事が提供されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	理事長の自宅を改装したホームで、家庭的な雰囲気を出しています。リビングやキッチンも全体にゆったりとしており、明るく家庭的で、セミパブリックのスペースとして事務所を開放しています。普通の家庭にある家具や用具からも生活を感じられます。1階の応接室は、家族が宿泊することも可能です。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやたんす、仏壇、椅子、テーブルなど持ち込みは自由です。冷蔵庫や電話を自室に設置し電話をしている利用者もいます。利用者一人ひとりが自分らしく過ごせるよう、居室作りを工夫しています。		